

平成29年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

1 研究開発課題名

CHANGE SAKURA

～技と心で羽ばたけ グローバルクリエイター育成プロジェクト～

2 研究の目的

(1) 服飾デザイン科

目指す生徒像として、豊かな感性と柔軟な発想力、創造力、確かな知識・技術を育成するとともに、グローバルな視野からものづくりやビジネスを取り上げ、総合的にファッションを世界に発信することができる、ファッションビジネスリーダーやグローバルファッションクリエイターを育成する。

そのために、東海地区の地場産業である繊維産業が有する技術力、デザイン力の高さを再確認し、世界に誇れる技術や日本の文化を理解し、オリジナルテキスタイルの提案、修正・改善を繰り返すことで、ビジネスとしての繊維生産の在り方を調査研究する。また、その生地を使ったオリジナルデザインの洋服を提案、商品化し、地場産業の活性化を目指す。さらに、業界をリードする国内外の学校と連携し、最先端のファッションの動向を把握するとともに、国内外との遠隔交流などを通して、異文化理解や国際感覚を身に付け、豊かな語学力、コミュニケーション能力の育成を図る。このような取組を通して、ファッションに関する専門的知識・技術を習得し、新たなファッショントレンドを創造・発信する素養や表現力、探究心を身に付けた人材を育成する。

将来、ファッション界をリードする人材育成のために、多様な異文化を理解し、広い国際感覚を身に付け、以下に示す素養を有し、価値観の異なる人々と協働して仕事をする機会が増えることを想定したグローバルマインドを涵養する。

○ファッションビジネスリーダーとは

- ・生活者にファッションに関する夢と発見を提案し、明日のファッション生活を創造する商品やサービスの提案をビジネスとしてとらえ、商品管理、デザイン企画、生産、物流などを総合的に理解できる人材
- ・日本のファッションやデザイン、テキスタイルなどについて知的財産権を理解し、産学官連携を図り魅力あるファッション生活を提案する人材

○グローバルファッションクリエイターとは

- ・地場産業や素材の特徴を理解し、専門的な技術によって商品開発ができる人材
- ・グローバルな視点で独自性を理解し、市民ニーズに合わせたファッションをクリエイトできる人材

- ファッションビジネスリーダー、グローバルクリエイターに必要な資質・能力
- ・ファッションに関する知識・技術、新しいものを生み出すときの発見(気付き)、観察力、分析力
- ・イメージしたことをかたちにする力、想像力、表現力、創造力
- ・ファッションとして提案する力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
- ・製作、提案、PR、販売への企画力・段取り力、発信力

(2) 食物科

目指す生徒像として、県立高校唯一の調理師養成施設としての食物科において、高度な調理知識・技術と豊かな感性を身に付け、食文化の伝承や、より良い暮らしを支え、「食」の企画・提案ができる「食」のフードクリエイターを育成する。

そのために、地域の関係機関や産業界と連携して、生産者・消費者の現状やニーズを調査・分析するとともに、地域に暮らす様々な人々との関わりを通して、地域の食文化への理解を深める。また、若い感性と柔軟な発想で地域農産物の特徴を生かしたオリジナルレシピや商品・サービスの開発、食生活の改善等の提案を行うなど実践的な活動を通して、地域の食文化の発展に寄与する態度を育成する。さらに、地域に暮らす外国人との共生、日本の食文化及び他国の食文化を理解する機会を通して、グローバルマインドを涵養し、関係機関との連携を図り、国際理解交流を進める。

○フードクリエイターとは

- ・地域の食生活、食材に興味・関心をもち、地域の食文化の理解を深め、現代における「食」の提案ができる人材
- ・郷土料理や地域食材の特徴を把握し、専門的な技術によって料理の提案、普及ができる人材

○フードクリエイターに必要な資質・能力

- ・食に関する知識・技術、食材の特徴を引き出し料理方法を工夫する探究心
- ・創作料理としてかたちにする力、表現力、創造力
- ・生命を繋ぐ畏敬の念をもち、健康を維持する食に関する安全衛生管理能力
- ・郷土料理として伝統を継承し、現代の食文化として提案する力、コミュニケーション力

3 実施期間

契約日から平成30年3月15日まで

4 当該年度における実施計画

服飾デザイン科

(1) 地元企業と関連機関とのコラボレーションによる商品開発

ア 研究のねらい

地場産業である繊維産業について再確認し、繊維が生地になるまでの生産工程を体験学習

することで、地域産業の理解を深める。さらにファッション産業界について、強い興味関心をもつとともに将来、ファッション産業界に従事し、企画から生産、加工・流通・販売というファッション産業に関する総合的なマネジメント力と、創造性豊かなオリジナル作品の製作に意欲的な人材を育成する。

ファッションに関する学習については、従来の枠組みにとらわれない授業実践を展開する。

イ 具体的な事業内容

①岐阜県警察本部との連携による交通事故防止啓発反射材使用のファッション提案

社会の要望の情報を収集・分析し、ニーズや目的に合ったものを企画、提案する。2年次に提案した反射材アイテムについて更なる改良と商品化を目指し、継続的な販売方法を考える。

岐阜県警察本部による「交通弱者の交通安全意識の向上及び夜間の交通事故防止を図る運動のキャンペーン」に継続参加・協力し、反射材を衣服に取り入れたファッションの提案を行う。幼児から高齢者までの幅広い年齢層の交通事故防止に関する問題解決を目的としたファッションアイテムを企画、提案する。2年次に提案した反射材アイテムの改良と商品化、岐阜県警察本部やJ A F（一般社団法人 日本自動車連盟）、靴販売店（BARNS）とミーティングを重ね、依頼者からの要望を作品にする能力を養う。

[教育課程上の位置付け]

3年次科目「課題研究」及び「ファッションデザイン」において研究を位置付ける。実施内容は、4月から5月末反射材アイテムの改良と商品化に向けて外部評価（J A F・岐阜県警察本部）とミーティング、ファッションの企画提案、6月から7月は反射材アイテムの製作と販売に向けて、8月からセーフティファッションを製作する。

②長良川鵜飼PRアイテムの提案

高校生による地方創生、岐阜の伝統文化「岐阜長良川鵜飼」を全国、世界に発信する。岐阜の伝統や文化についての理解を深め、尊敬する態度を養い、郷土の伝統や文化を伝承・発展させる。

平成26年3月、長良川鵜飼漁の技術が国の重要無形民俗文化財に指定され、鵜飼用具一式も国の重要有形民俗文化財に指定されているため、装束の改良を行うことは不可能であることから、岐阜の伝統文化を理解し世界にその魅力を発信するための長良川鵜飼PRアイテムの提案をする。平成28年度から長良川鵜飼の光景や鵜匠装束の機能性とシンプルで無駄のないデザインからヒントを得てテキスタイルから考案、製作しているアイテム（ポーチ、バック、ネクタイ）の改良を行う。考案したPRアイテムのテストマーケティングを繰り返しPRすることで、製造企業、販売ルートを開拓し商品化を目指す。

[教育課程上の位置付け]

3年次科目「課題研究」「ファッションデザイン」2年次科目「ファッションビジネス」

実施内容は、4月から5月末 オリジナルテキスタイルを使用した鵜飼PRネクタイの商品化、鵜飼PRアイテム（ポーチ・バック）の改良と製造、6月から9月末 鵜飼PRアイテムのテストマーケティング実施と販売ルートの開拓をする。

③オリジナルテキスタイルの企画・提案・製作

高校生による地方創生 地場産業開発素材を全国、世界へ発信する。地場産業活性化へ東海地区の地場産業である繊維産業が有する技術力、デザイン力の高さを再確認し、世界に誇れる技術や日本の文化を理解するとともに、素材についての学習を深める。また、テキスタイル提案の一連作業において、提案力、表現力を養い、商品化に向けた企画力、マネジメント力、コミュニケーション能力の育成を図る。

平成28年度に企画・製作したオリジナルテキスタイルについて、繊維協会、企業、ブランドデザイナーなどによる評価を行い、品質、価格、用途等についてのアドバイスを基にテキスタイルの改善を行う。オリジナルテキスタイルで製作した製品の商品化に向けて、ファッションアイテムのサンプルを製作し、付加価値を付けるための研究やコンセプトのプレゼンテーションを行い、企業からアドバイスを受けるなどのミーティングを重ね、最終的には、企業と提携して商品化を行う。

[教育課程上の位置付け]

3年次科目「課題研究」、「ファッションデザイン」及び「服飾手芸」、2年生次科目「ファッションデザイン」「服飾手芸」において研修を位置付ける。実施内容は、4月から5月末オリジナルテキスタイルの評価、改善、製造、6月から9月末 関係機関とのミーティング、オリジナルテキスタイルの製品企画、製造、販売を行う。

(2) 国際感覚とコミュニケーション能力の育成

ア 研究のねらい

国内外のファッション専門学校との遠隔交流、海外留学生との交流、ファッション学科以外の高校生との交流を通して、国や地域により着眼点や考え方、感じ方が違うことを学習し、異文化の理解を深め、国際感覚を養う。

イ 具体的な事業内容

①海外のファッション専門学生との交流

エスモード・ジャポン京都校で世界のファッションビジネス等に関する研修を行い、エスモードインターナショナルの海外の学生（パリ校など）とインターネット回線を利用し、本校開発のテキスタイルやアイテムについて、意見交換をするなどの交流を行う。それぞれの国の異文化を理解をし、刺激を受け感性を磨く方法の一つとする。この交流によって、世界を身近に感じるとともに、同じ世代の学生のファッションを学ぶ姿勢に刺激を受け、今後の学習への意欲向上を図る。

[教育課程上の位置付け]

2・3年次科目「ファッションデザイン」に位置付け、発展学習として実施する。

②国内の他学科の専門高校生との交流

ファッション以外を学ぶ専門高校生、岐阜県立岐阜各務野高等学校情報科の生徒との交流を行い、タブレット端末の活動やデザイン専門分野のソフトウェアを活用し、デザイン発想の転

換を図り考案をする。

岐阜県立岐阜工業高等学校デザイン工学科の生徒との交流を行い、イラストレーターの活用方法を、ファッションショー演出に関するプロジェクションマッピングの素材構成を学ぶ。他学科との交流により視野を広げ、アイデアや発想力、プレゼンテーション能力を向上させ、今後の作品製作の意欲向上と高度な技術の定着を図る。

[教育課程上の位置付け]

3年次科目「ファッションデザイン」に位置付け、発展学習として実施する。

(3) 専門技術と独創性の育成

ア 研究のねらい

各種研修を通して、豊かな感性と柔軟な発想力、創造力、確かな知識・技術を習得させる。また、将来ファッション関係の専門職に就くにあたり、求められる能力や資質を高める。資格取得や技能試験及びファッションコンテストなどに挑戦させ、達成感や成就感をもたせる。

イ 具体的な事業内容

①各種研修

○東京研修

3年生のSPH研究リーダーを中心に希望者5人程度を対象に9月に実施する。一般社団法人日本反射材普及協会主催「反射材エキシビジョン2017」の展示参加と見学を行い、反射材を用いたファッションの学習をする。また、美術館やファッション関連の展覧会を鑑賞、表参道、渋谷、原宿、銀座などでマーケットリサーチを行いファッション感覚を磨くとともに、最新の情報を得る。日暮里繊維街では素材のリサーチを行う。研修後は、報告会を実施し情報を共有することで作品製作に反映させる。

[教育課程上の位置付け]

3年次科目「ファッションデザイン」、「ファッション造形」に位置付け、発展学習として実施する。

○京都研修 (実習費で継続実施)

2年生を対象に8月に実施する。エスモード・ジャポン京都校での異文化交流及び開発商品についての意見交換を行う。また、京都市街において、班毎にテーマを決めて伝統工芸体験やマーケットリサーチなどの研修計画を立て、京都研修を実施する。この研修では、長い歴史の中で、先人達が築いた日本独自の和の美しさを体感し、世界と比較しても比類なき美しく価値のある財産としての存在を再認識する。

[教育課程上の位置付け]

2年次科目「ファッションビジネス」、「ファッションデザイン」及び「服飾手芸」に位置付け、オリジナルテキスタイル提案と、伝統工芸理解と文様、和模様の研究、マーケットリサーチを実施する。

○JAPAN YARN FAIR&総合展「THE尾州」の見学(実習費で継続実施)

2年生を対象に2月に実施する。一宮で行われるJAPAN YARN FAIR&総合

展「THE尾州」の見学を通して、地元素材の良さを再確認し、それらを使用したオリジナルファッション開発への興味関心を高める。

[教育課程上の位置付け]

2年次科目「ファッションビジネス」及び「ファッションデザイン」に位置付け、実践的な学習へ発展させる。

②資格取得への挑戦

一般財団法人日本ファッション教育振興協会により主催・認定されている検定試験である以下の3つの検定取得に向けて取り組む。

○「ファッション色彩検定」

現在、同検定3級は1年生の1月に受検し、ほぼ100%合格している。一方2級は、2年生の7月に受検するが、本年度の合格率は25%程度であった。同検定取得者は、アパレル販売職には有用であり、企業からの要望も強い。また、専門学校へ進学後、さらに上位級を目指す生徒が多い。色彩は視覚的に学ぶ要素が大きく、合格率を高めるためには、カラー教材を多く導入し、効率よく学習させる必要がある。合格率80%を目指す。

[教育課程上の位置付け]

2年次科目「ファッションデザイン」において位置付け、進路実現を目指す。

○「ファッション販売能力検定」

同検定は、ファッション商品販売の仕事に携わる場合に必要とされる基本的なファッション商品知識、販売知識、接客技術、マーケティング、VMDなどの知識を問う検定である。

平成28年度は、3年生の希望者7人が7月に「ファッション販売能力受検」を受検し、合格率は100%であった。進路実態に直結することも考え、本校生徒生徒にとって受検は必要である。

[教育課程上の位置付け]

3年次科目「選択ファッションビジネス」において位置付け、進路実現を目指した資格取得を実現する。

○「パターンメイキング検定」

同検定は、3年生の希望者が受検しており、一次試験（理論と製図）、二次試験（実技）とも経験値が必要となり容易ではないが、平成28年度は一次試験の合格率は92%、二次試験は82%であった。実技試験においては、夏期休業中に特別授業を実施し、業界での勤務経験のある服飾系の専門学校の講師による講習を受講しているが、自主学習の環境整備を行うなどし、最終合格率90%を目指す。

[教育課程上の位置付け]

3年次科目「選択ファッションデザイン」において位置付け、進路実現を目指した資格取得を実現する。

③各種コンテストに挑戦

例年多くのコンテストに応募し、最終審査に参加する中で得たコンテスト毎の傾向などの情報を共有し、デザイン発想、製作指導にあたっている。また、デザインの工夫だけでなく、テ

キスタイルから創作した作品が高評価されるため、素材の知識や工芸技法の応用力が必要となる。多くのコンテストの最終審査会やプロデザイナーの作品を鑑賞させる機会を設けることで感性を磨き、さらに、伝統工芸などの専門家から技術を学び、作品に応用する力を身に付けさせる。また、ファッションのみにとらわれることなく、多くの美術作品や研修で訪れる各地の景観を鑑賞させることも、豊かなデザイン発想力や、素材開発力に繋がり、さらにポートフォリオ作成などを通して導き、コンテスト入賞実績を上げる。

食物科

(1) 地域の関係機関や産業界と連携した「食」の研究・提案

ア 研究のねらい

岐阜県産食材、地域食材を使用し、商品化を目指した料理、製菓を更に改善し、地域に根付いた提案を行う。食産業を取り巻く環境を学び、総合的なマネジメント力や実践力、企画力を育成する。商品化・販売を実現させる。

イ 具体的な事業内容

①地産地消の推進に向けた地域食材を活用した商品開発

岐阜県産食材、地域食材の品種や特徴を生かした料理を商品開発する。JAにしみのとの連携を継続し、にしみのブランド野菜、地域食材を活用した料理を、3年生科目「総合調理実習」で実施しているレストラン実習のメニュー献立に取り入れ、校外外に提供する。校外からの試食者には家庭で作りやすい材料や分量のレシピを提供する。

また、地域の食材「ハツシモ」、にしみのブランド野菜、鮎などを活用した和食「和桜WAZAKURA」の提案と販売を行う。さらに岐阜県の商工労働部地域産業課とコンビニエンスストアとの共同開発提案を行う。

②大学との連携

3年次においては、平成27年度に考案した岐阜県発祥米「ハツシモ」の米粉を使った焼き菓子について、朝日大学経営学部ビジネス企画学科と連携し、商品化への手順やそれを市場へ流通させる方法などを学び、販売へ結び付け、地域食材の利用・消費の拡大に貢献する。また、1・2年生は、商品化する菓子や料理のレシピの考え方、商品化に必要なノウハウなどについて、指導・助言を受け、3年生では商品化した製品を、ニーズに対応し継続的に売り上げるための研究に取り組む。

[教育課程上の位置付け]

1年次科目「生活産業基礎」、3年生科目「調理」、「総合調理実習」及び「課題研究」において位置付け、発展学習として実施する。

(2) 勤労観、職業観、課題解決力、コミュニケーション能力の育成

ア 研究のねらい

現在、食産業界で活躍している専門家の講演会や講習会、現場実習を通して、勤労観、職業観、課題解決力、コミュニケーション能力の育成を図る。

イ 具体的な事業内容

①食産業界で活躍している専門家の講演会・講習会の実施

食産業界で活躍している専門家の講演や講習会を通して、ものづくりや食に対する情熱、現在の活躍に至るまでの体験談等を通して、生徒自身の未来像を具体化させる。学習意欲の向上と高い技術の定着を図る。

[教育課程上の位置付け]

1年次科目「生活産業基礎」、2年次科目「家庭総合」及び3年次科目「課題研究」において研修を位置付け、発展学習として実施する。

②インターンシップの実施

2年次の7月、3年次の6月に各5日間インターンシップを実施する。インターンシップを通して、食産業界に対する正しい理解と関心を深め、望ましい勤労観、職業観を身に付ける。

[教育課程上の位置付け]

2年次科目「家庭総合」、3年次科目「総合調理実習」、「公衆衛生」及び「食品衛生」に位置付ける。

③模擬経営実習

大垣市内のレストランや地域の販売店において、月に1回（週末）に、生徒がオーナーシェフ、厨房スタッフ、ホールスタッフとして消費者のニーズや地域食材の旬や栄養価などを研究し、献立作成、調理、サービス、衛生管理までの調理師業務全般を体験学習する。消費者の外食産業への要求を捉え、調理、経営、サービスなど総合的に対応できる力を育成する。

[教育課程上の位置付け]

3年次科目「総合調理実習」に位置付け、発展学習として実施する。

④語学力の育成

英会話によるコミュニケーション力の育成を目指し、食に関する専門的英単語を習得し、実際の場面を想定したロールプレイングやペアワークを通して、食産業界で役立つ実用的な会話技術を身に付ける。本学科で学んだこと生かし、英語でのレシピ作成・発信をし「食」の提案を英語でできる語学力を育成する。

[教育課程上の位置付け]

1年次科目「英語会話」及び「生活産業基礎」、2年次科目「コミュニケーション英語」及び「調理理論」に位置付け、発展学習として実施する。

(3) 高度な調理技術と幅広い知識を身に付けた人材の育成

ア 研究のねらい

専門学校や他の高等学校、岐阜県調理師連合との連携を通して、高度な技術を身に付け、豊かな感性や幅広い知識、創造力を磨く。また、各種コンクールに挑戦し、外部の評価を受け、達成感や成就感をもたせ、学習意欲の向上を図る。

イ 具体的な事業内容

①調理師養成専門学校「辻調理師専門学校」との連携

プロの世界で通用する技術力を育てる専門学校の技術指導を受講し、高度な知識と技術を体得し、豊かな感性や幅広い知識、創造力を磨く。

[教育課程上の位置付け]

各学年、科目「調理」において、それぞれの技能に合わせ、技術向上、発展的な取組として行う。

②「岐阜県調理師連合会」との連携

岐阜県の調理師の資質向上を目指し、技術コンクールや料理講習会を行っている岐阜県調理師連合会と連携し、職場で求められる調理師の資質、考え方、知識や技術、調理師として働くことの魅力や生きがいについて話を聞く。必要な実践的調理技術・知識を習得し、地域産業で活躍できる調理師を目指す。

[教育課程上の位置付け]

各学年、科目「調理」に位置付け、それぞれの学習内容に合わせ、技術向上のための取組として行う。

③全国レベルのコンテストに挑戦

多くのコンテストに応募・参加し、日常の学習活動を通して習得した知識・技術をさらに高め応用力を身に付ける。魅力ある料理の演出など、食空間の演出や料理を美味しく表現するフードクリエイターを育成する。

[教育課程上の位置付け]

各学年、科目「調理」に位置付け、発展学習として行う。

【効果測定について】（服飾デザイン科、食物科共通）

①資格取得・技能試験、コンテスト等への入賞結果等による測定（定量的評価）

知識・技術を習得したかどうかの客観的な指標として、各種検定試験や技能試験等の取得が挙げられる。資格・検定の取得は、生徒の学習意欲を高めるとともに、日ごろの専門的学習到達度の客観的評価を得る手段として、また、将来の職業に求められる能力や資質として直接的に結びつく有効な手段でもある。また、各種コンクール等への参加を通して現在の取組を外部評価することも、生徒のモチベーションを上げ、参加までの取組過程で、様々な課題と向き合い、課題解決に意欲を示す取組となる。

<服飾デザイン科>

- ・企業連携による商品開発
- ・全国規模の各種コンクールにおける入賞数増加
- ・ファッション色彩能力検定 2級合格
- ・ファッション販売能力検定 3級合格
- ・パターンメイキング技術検定 3級合格

<食物科>

- ・企業連携による商品開発
- ・全国規模の各種コンクールにおける入賞数増加
- ・調理師 資格取得
- ・技術考査（専門調理師筆記試験に相当） 合格
- ・食物・調理技術検定 1級合格

②アンケート調査等による測定（定性的評価）

教育課程の科目に位置付けたそれぞれの事業の取組に対して、職業人として育成すべき必要な能力の洗い出しを行い、その具体的な評価方法を授業実践の中で段階的に研究を進める。「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」など、これまで比較的、評価が困難であるとされた項目においても、適正に評価する方法を模索するとともに、目標に準拠した評価の確立を目指す。また、専門的な知識・技術の習得過程である学習活動において、生徒の自己評価や他者評価、教員同士の評価、大学教員、企業関係者等の有識者による外部評価等、様々な評価手法を活用し、生徒を多面的に捉え、分析的に評価する。具体的には、事業プログラムに取り組む前後で、生徒がどのように変容したのかを、授業者による生徒評価、専門家による生徒評価、生徒による自己評価などのアンケート調査及び診断を実施する。

生徒の変容について次の観点について評価する。

ア) 関連産業への関心の変容について

高校卒業後の進路意識や地域経済・中小企業への関心等をアンケート調査する。

イ) 社会人基礎力の伸長について

経済産業省が社会人基礎力として定義付けている、前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク）の各要素の伸長度を「社会人基礎力診断」として、能力要素ごとに点数化する。

ウ) 多様な学習評価法の研究

パフォーマンス課題ごとに段階的な評価をするためのルーブリック評価基準を設定し評価する。評価の観点を可視化させ、具体的な褒めポイントを明確にすることで、教員は生徒自身が自分の成長記録を把握し、生徒への指導助言に繋げるとともに、生徒の学習意欲の向上に繋げる。ポートフォリオでの自己表現も取り入れ、個々の学びの振り返りを行い、各々の課題を明確にする。

【研究成果の普及】（両学科共通）

専門高校と専門学科に関する中学生や保護者の理解を深めるために、ホームページや新聞、情報誌などを活用して情報を発信する。また、学校説明会や高校体験入学等の機会に、SPH事業の取組を紹介し、専門高校と専門学科の学びの魅力を伝える。

卒業研究作品発表会を通して、学校関係者や保護者、地域の方に研究成果を発表する。また、研究過程や成果を、随時、学校ホームページに掲載するとともに、県内専門高校の学科主任が一堂に集う高等学校職業教育関係学科主任等連絡協議会で発表するなど、研究

成果の普及を図る。

また、全国高等学校長協会家庭部会被服・服飾デザイン系高等学校長会総会・研究協議会及び学科主任研究協議会並びに全国高等学校長協会家庭部会食物系高等学校長会総会・研究協議会並びに学科主任研究協議会において、研究過程や成果、課題を発表し、先進的な取組を発信する。さらに、独立行政法人教員研修センターの委託事業である産業・情報技術等指導者養成研修での発表機会を検討するなど、全国公立私立高等学校家庭科教員へ普及を図る。

【スーパーハイスクールの連携】

①事業概要

本県には、現在SGH指定校が2校、SSH指定校が2校、SPH指定校が3校ある。SGHではグローバル人材育成を図ることを目的として、海外フィールドワーク等を通して、グローバルな社会課題の解決策を発見し、英語の論文にまとめる取組を実施している。SSHでは、科学技術系人材の育成を図ることを目的として、最先端の科学技術に触れて、論文を作成すること等を通して、科学的な思考力を身に付ける取組を実施している。平成28年度から、これらの研究指定校が一堂に会して連携や協働した取組を実施しているが、スーパーハイスクールの生徒たちが互いに刺激し合い、見識を広め、各々の特色を生かした連携を行うことによる教育効果は高いと期待できる。また、連携した取組を実施することで、県内の高等学校の自校の取組の一層の推進に資する機会を設定する。さらに、研究成果を発表する場を設けることにより、各校生徒のモチベーションの向上に繋がるとともに、参加校へも課題研究の効果が示され、県内高校への普及を促進することが期待できる。

②実施について

・スーパーハイスクールセッション

SGH指定校、SSH指定校、SPH指定校から意欲のある生徒たちが集まり、互いの知見や強みを生かして連携し、自発的で自由なアイデアを出し合いながら、協議し発表会を行う。